

エコアクション 21

2018 年度

# 環境経営レポート

対象期間:2018年3月21日～2019年3月20日



発行日:2019年8月25日

株式会社シヨセキ

## I. 環境経営方針

### <基本方針>

株式会社ショセキは、ものづくりを主とする企業活動において環境保全に対する取り組みを重要な責務と捉え、お客様や社員の幸福を追求するとともに、資源の有効活用と環境負荷の低減に取り組むことにより、自社の継続的発展と循環型社会の実現を目指します。

### <行動指針>

- ・環境マネジメントシステムを継続的に改善し、社員の環境への意識の向上に努めます。
- ・環境負荷の削減に努め、環境に配慮した企業活動を推進します。
  - ◆省エネルギー活動により、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
  - ◆3R（リデュース、リユース、リサイクル）を徹底し、資源の有効活用と廃棄物の削減に努めます。
  - ◆継続的な改善活動により、品質と作業効率の向上に努めます。
  - ◆生産工程で使用する資材を適正管理し、環境影響の少ない製品を使用するとともに、社員の健康維持に努めます。
- ・環境関連の法令、規制、協定等を遵守します。
- ・この環境経営方針は、ホームページ等で広く一般に公開します。

制定日 2018年9月1日

株式会社ショセキ  
代表取締役 浜中豊和

## Ⅱ. 事業者活動の概要

### 1. 事業社名及び代表者名

- 事業者名 株式会社シヨセキ
- 代表者名 代表取締役 浜中 豊和

### 2. 所在地

- 本社 〒920-0961 金沢市香林坊 1-2-24
- 白山工場 〒929-0201 白山市鹿島町 2-17-1
- 富山支店 〒933-0057 高岡市広小路 1-15
- 東京支店 〒104-0045 東京都中央区築地 6-4-8
- 新聞印刷部 〒924-0057 白山市松本町 2506 (株北國新聞社 白山制作センター内)

### 3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

- 責任者 製造部係長 柏 博聡
- 担当者 総務部 清水 康幸
- 連絡先 TEL:076-233-1151 FAX:076-278-7772  
e-mail simizu@syoseki.co.jp

### 4. 事業の内容及び認証・登録範囲

- 全活動 一般商用印刷物、書籍、事務印刷物等の印刷・製本、新聞印刷

### 5. 事業規模

- 設立年月 1947年2月
- 資本金 5000万円
- 製品出荷額 33億5368万円(2018年度)
- 従業員数 134人
- 延べ床面積 白山工場 9,156,930㎡

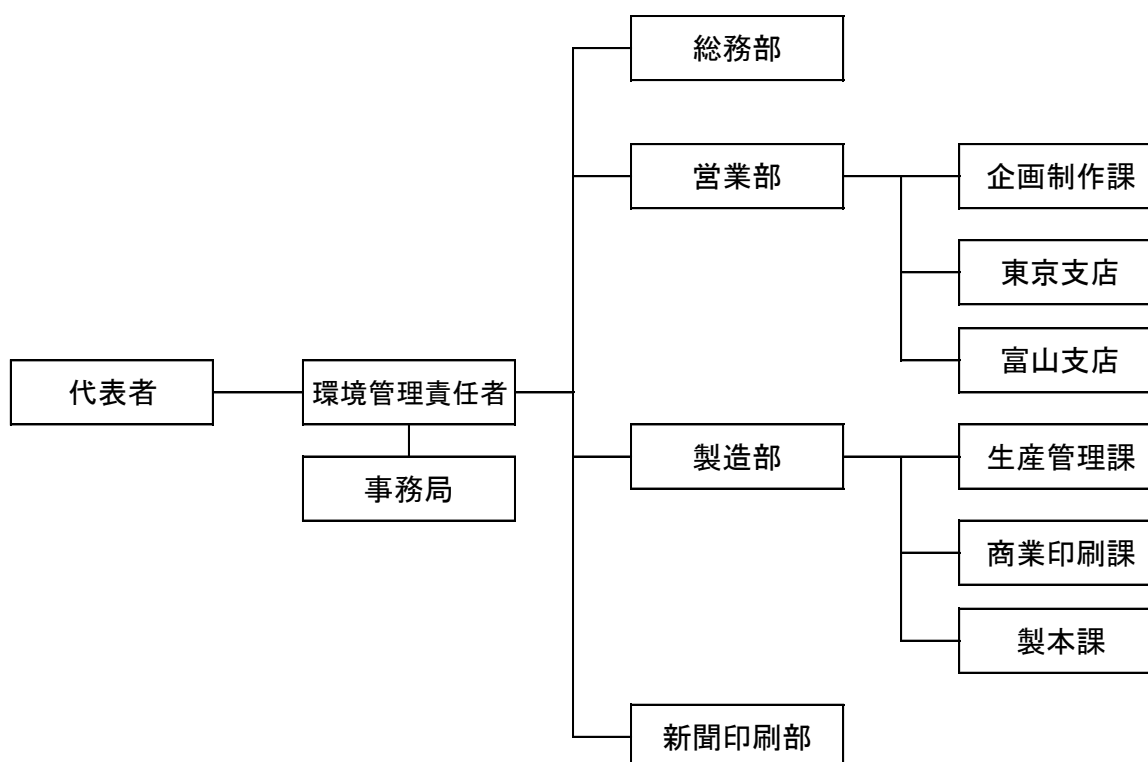
### 6. 認証対象事業所

- 全組織 本社・白山工場・白山制作センター・富山支店・東京支店  
なお、本社及び2支店は北國新聞社のビル内に常駐者が数名いますが、環境負荷は今回集計に含めていません。

### 7. 環境活動レポートの対象期間

- 対象期間 2018年3月21日～2019年3月20日

### Ⅲ. 実施体制



#### 【責任者の役割】

責任者	権限と役割
代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の策定と見直し</li> <li>環境管理責任者の任命</li> <li>環境経営方針に基づく目標の承認</li> <li>実施に必要な資源(ヒト・モノ・カネ)の準備</li> <li>代表者に活動全体の評価と見直しの実施</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境マネジメントシステムの構築、運用、見直し</li> <li>環境関連法規の遵守と評価の実施</li> <li>環境方針に基づく目標の設定</li> <li>部門長への連絡事項の周知</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者の補佐</li> <li>環境目標、環境負荷の集計と報告</li> <li>社員教育訓練の実施</li> <li>環境活動レポートの作成、及び必要文書・記録の作成</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門における活動の実施と環境経営方針の周知徹底</li> <li>部員に対する教育訓練の実施</li> </ul>
従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営方針と取り組みのに対する重要性の理解と実施</li> <li>積極的な活動への参加</li> </ul>
内部監査員	<ul style="list-style-type: none"> <li>内部監査の実施と結果の報告</li> <li>監査結果に基づく是正勧告</li> </ul>

## IV.環境経営環境目標

2017年度までは、白山工場と白山制作センターの2工場を合わせた目標設定を行っていましたが、2018年度からは2017年度の実績の2工場それぞれの実績をもとに、白山工場と白山制作センターに分けて目標値を設定しました。

### ■白山工場

項目	単位	2017年度 実績	2018年度 目標	2019年度 目標	2020年度 目標
CO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	1,990	1,970	1,950	1,930
廃棄物排出量	kg/百万円	654	647	640	634
再資源化率	%	98.3	96.0	96.0	96.0
水資源使用量	m <sup>3</sup> /百万円	1.39	1.40	1.40	1.40

- ・CO<sub>2</sub>排出量は2017年度の実績を基準として、毎年1%の削減を目標とする
- ・廃棄物排出量は2017年度の実績を基準として、毎年1%の削減を目標とする
- ・再資源化率は、毎年96%以上の確保を目標とする
- ・水資源使用量は2017年度の実績を考慮し、毎年1.4 m<sup>3</sup>/百万円の確保を目標とする

### ■白山制作センター

項目	単位	2017年度 実績	2018年度 目標	2019年度 目標	2020年度 目標
CO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	3,455	3,420	3,386	3,352
廃棄物排出量	kg/百万円	1,041	1,030	1,020	1,010
再資源化率	%	94.7	94.0	94.0	94.0
水資源使用量	m <sup>3</sup> /百万円	5.63	5.50	5.50	5.50

- ・CO<sub>2</sub>排出量は2017年度の実績を基準として、毎年1%の削減を目標とする
- ・廃棄物排出量は2017年度の実績を基準として、毎年1%の削減を目標とする
- ・再資源化率は、毎年94%以上の確保を目標とする
- ・水資源使用量は2017年度の実績を考慮し、毎年5.5 m<sup>3</sup>/百万円の確保を目標とする

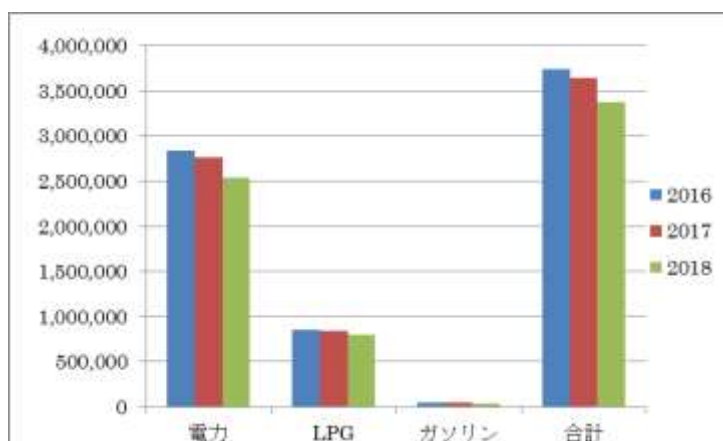
## V 環境への負荷の調査結果と目標達成度の詳細

### 白山工場

#### ① 二酸化炭素排出量

項目	単位	2016 年度	2017 年度	2018 年度	前年差	前年比率
電力	kg-CO <sub>2</sub>	2,834,198	2,761,084	2,532,156	-228,928	91.7%
LPG	kg-CO <sub>2</sub>	856,660	837,610	799,563	-38,047	95.4%
ガソリン	kg-CO <sub>2</sub>	45,570	44,448	41,620	-2,828	93.6%
合計	kg-CO <sub>2</sub>	3,736,428	3,643,142	3,373,339	-269,803	92.6%

#### < 二酸化炭素排出量推移 >



#### < 二酸化炭素排比率 >



② 廃棄物排出量

項目	単位	2016年度	2017年度	2018年度	前年差	前年比率
再生利用可 廃棄物	kg	—	1,177,905	1,050,480	-127,425	89.1%
再生利用不可 廃棄物	kg	—	20,310	17,600	-2,710	86.7%
合計	kg	—	1,198,215	1,068,080	-130,135	89.1%
再資源化率	kg	—	98.3%	98.3%	0	100%

③ 水資源使用量

項目	単位	2016年度	2017年度	2018年度	前年差	前年比率
上水道	m <sup>3</sup>	2,667	2,548	2,624	76	103.0%

<白山工場 目標達成度>

項目	単位	2018年度 目標	2018年度 実績	評価
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	1,970	1916	○
廃棄物排出量	kg/百万円	647	606	○
再資源化率	%	96.0	96.3	○
水資源使用量	m <sup>3</sup> -CO <sub>2</sub> /百万円	1.40	1.49	×

## ■白山工場の取り組み結果について

### <エネルギー>

2018年度の白山工場の二酸化炭素の総排出量は、2017年度に対して269,803kg-CO<sub>2</sub>の削減となりました。項目別でも、電力・LPG/ガソリンの全ての項目で前年度を下回る排出量となっており、売上減少による作業量の減少も要因の一つと考えられますが、活動への積極的な取り組みが数値に表れており、全体削減量だけではなく、目標の1,970kg-CO<sub>2</sub>/百万円に対しても1,916 kg-CO<sub>2</sub>/百万円と達成することができました。

### <廃棄物>

廃棄物の排出量は、2017年度から130,135 kgの削減となりました。特に、紙・段ボールが102,970 kgの削減と大半を占めており、もともと排出量の多い紙・段ボールを削減できたことで、廃棄物全体としても大きな削減となりました。目標についても達成することができており、取り組みの成果が数値として表れました。

### <水資源使用量>

水資源使用量については、12月に配管の破損による漏水があったため、その影響により前年に対して増加となってしまいました。もともと全体的に水の使用量が多くない中での漏水であったため、目標にも大きく影響し、未達となりました。12月の実績を前年通りとして算出すると使用量、目標ともに良い結果となっていました。日常的に点検を実施していますが、いかに早期発見、早期対応をするかが今後の課題として挙げられます。



## 新聞印刷部

### ① 二酸化炭素排出量

項目	単位	2016年	2017年	2018年	前年差	前年比率
電力	kg-CO <sub>2</sub>	3,709,826	3,499,421	3,594,918	95,497	102.7%

### ② 廃棄物排出量

項目	単位	2016年	2017年	2018年	前年差	前年比率
再生利用可 廃棄物	kg	—	998,119	1,019,472	21,353	89.1%
再生利用不可 廃棄物	kg	—	56,200	61,755	5,555	86.7%
合計	kg	—	1,054,319	1,081,227	26,908	89.1%
再資源化率	kg	—	94.6	94.2	-0.4	100%

### ③ 水資源使用量

項目	単位	2016年度	2017年度	2018年度	前年差	前年比率
上水道	m <sup>3</sup>	5,788	5,701	6,021	320	105.6%

### <新聞印刷部 目標達成度>

項目	単位	2018年目標	2018年度実績	評価
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	3,420	3,507	×
廃棄物排出量	kg/百万円	1,030	1,055	×
再資源化率	%	94.0	94.3	○
水資源使用量	m <sup>3</sup> -CO <sub>2</sub> /百万円	5.50	5.84	×

■新聞印刷部の取り組み結果について

白山制作センターの取り組みについては、廃棄物の再資源化率の除くすべての項目で、前年実績に対して増加となり、原単位当たりの目標についても再資源化率を除く全ての項目で達成することができませんでした。

原因としては、2017年度の8月より新規日刊新聞の受託印刷を開始し、昨年比べて作業量が増加したことにより電力・廃棄物・水使用量すべての項目で、昨年実績より増加する結果となりました。また原単位当たりの目標未達については、その他の新聞受託において受託料金の見直しがあり、同じ作業量であるにも関わらず受託料が削減したことで売上が減少し、結果として目標が未達となりました。

2018年度の白山制作センターの取り組み結果については、昨年と状況が大きく変化したため目標未達はやむを得ないと考えられますが、2019年度については新たに目標を設定して活動します。

## VI 2018年度の具体的な取り組み(活動計画)と実施状況の確認

### 1. 二酸化炭素排出量削減に向けての対策と評価

#### 計画

(生産プロセスに関して)	評価	部署
セット替え時間が少なくなる生産計画に取り組む。	◎	製造/新聞
セット替え時間の短縮を進める。	◎	製造
損紙(不具合品)の低減に取り組む。	◎	製造
作業のムダをなくすために5Sに取り組む。	○	全社
損紙については、ここ数年よい数値となっており年々改善されている。 5Sは良くなっているが、事務フロアについてはさらに改善に努める。		

(空調に関して)	評価	部署
冷房28℃・暖房20℃を基準として定め、空調の適温化を徹底する。	◎	全社
工場内の適所に寒暖計を設置し、過剰な空調になっていないか監視する。	◎	製造/新聞
定期的に空調設備の清掃を実施し、効率の良い運転を徹底する。	◎	全社
事務フロアでは、総務部を中心に定期的に見回することで過剰設定を抑制できている。		

(照明に関して)	評価	部署
照明を間引きし、過剰な照明を控える。	◎	全社
昼休みや残業時に不要なエリアの照明を消灯する。	◎	全社
倉庫・トイレ・階段等の照明の常時消灯・適時点灯を徹底する。	◎	全社
細かに間引きすることで、過剰な照明を抑えられている。またLEDに交換したことで電力量を大きく抑制できた。		

(生産設備に関して)	評価	部署
印刷機械や周辺機器は、可能な限り未使用時の電源をOFFにする。	○	製造部
OA機器で、使用頻度の低いものについては、常時電源OFFとし、使用時に起動する。	○	全社
輪転機ドライヤーの排気量見直しによるLPG使用量の削減		
設備のメンテナンスにも関わることであり、完全に実施することは難しいため、リスクも考慮したうえで、運用してほしい。		

(自動車に関して)	評価	部署
自動車を運転する際は、エコドライブ、安全運転に努める。	○	営業部
社有車の更新・新規導入の際には、低排出ガス・低燃費等の環境に配慮した車両を購入する。	-	総務部
エコカー割合の増加によりここ数年ガソリン使用量が削減できている。今後は、ドラレコ導入によるエコドライブの推進を検討する。		

## 2. 廃棄物低減に向けての対策

(排出量の削減に関して)	評価	部署
各工程の品質チェックを徹底し、不良品の発生を低減する。	○	製造
従来以上に購買管理を徹底し、無駄買いによるロスを抑える。	◎	全社
社内資料に両面コピーの使用を推進し、コピー用紙の使用量の減量を図る。	○	全社
品質に影響の出ない社内文書等は、使用済み用紙の裏紙の利用を推進する。	○	全社
不必要な大判サイズのコピーなどを減らし、文書のスリム化を図る。	◎	全社
社内LANを利用し、回覧文書等のペーパーレス化を図る。	◎	全社
印刷・製本の作業予備数量の見直し再検討を行う。	△	製造
印刷インキ使用量削減への取り組み	○	製造
損紙率の向上により、紙類の排出量が大きく削減された。また、資材購買についても購入前の申請を厳しくすることで、必要以上の無駄な購入を抑えることができている。		

(リサイクルに関して)	評価	部署
コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収・詰め替え再利用を推進する。	◎	総務部
産業廃棄物及び一般廃棄物の分別に際し、分別ボックスを設置し、出来る限り資源ゴミとして回収できるようにする。	◎	全社
全社的に分別が徹底されている。		

3. 化学物質管理強化等の取り組み

(その他)	評価	部署
社内の備品等についてはグリーン購入適合品を優先的に購入使用する。	○	総務
PRTR法に関して、当社は指定物質の取扱量が規定値未満であるため、指定事業所には相当しないが、指定物質および指定物質を含む資材の取扱いについては厳重に管理する。	◎	製造
有害性のおそれのある化学物質を含め全ての溶剤を特定して管理を行う。常に SDS を備える。	◎	製造
現在、主に使用している大豆油インキの使用をさらに推進し、100%を目指す。	◎	製造
印刷の新技术に関して、常に情報を収集し、知識を高め、設備更新の際に導入を検討できる体制を整える。	◎	製造
技術講習会への参加や資格の取得に積極的に挑戦し、印刷技術の向上に努め、作業・資材の無駄を省く。	◎	全社
データ通信を利用した入稿、PDFによるオンライン校正等に積極的に取り組む	○	全社
オンライン校正システムの導入を進めており、校正紙の出力や営業の外回り時間などの削減が見込まれる。今後も継続して新たな		

◎徹底した対策がなされている。 ○対策がなされているが、まだ改善の余地がある。

△多少実施されているが、成果となるにはまだまだ、課題がある。 ×まったく実施されていない。

## Ⅶ 緊急事態への対応

環境上の緊急事態に備えて、発生時の被害を最小限にとどめるよう各職場で緊急事態に対する訓練を実施しました。

### 【2018 年度訓練実績】

- オイル漏れ
- 廃液流出 白山工場(2018年9月実施)
- 消防 白山工場(2019年2月実施)
- LPガス漏洩 白山工場(2019年10月実施)

白山制作センター(2019年9月実施)

白山制作センター(2019年9月実施)

### 【訓練の様相】

(消防訓練)



## Ⅷ 2018 年度に向けた取り組み(活動計画)

2019 年度の活動計画は、2018 年度の取り組みを継続して実施します。また、年度中にも必要に応じて適時追加して、全社一体となりより積極的に取り組みを行います。

## Ⅸ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果並びに違反訴訟等の有無

No.	名 称	適用施設・業務等	法的要求事項の内容	評価
1	廃棄物の処理 及び清掃に関する法律	廃プラスチック類、 金属くず 紙くず、 廃アルカリ  PH12.5 未満、12.5 以上は特管物	産業廃棄物分別保管基準の遵守	○
			産業廃棄物の収集、処理委託基準の	○
			産業廃棄物管理票による管理	○
			事業所内での焼却の禁止	○
			マニフェスト交付状況報告	○
2	下水道法	下水	排出量の把握 (50 m <sup>3</sup> /日)	○
			指定水質の下水への排水	○
3	水質汚濁防止法	自動式フィルム現像洗浄施設 自動式感光膜付印刷版現像洗浄施設	貯油タンクから漏れた場合は届出する	○
4	PRTR 制度(化管法)	第1種指定化学物質	指定物質の特定	○
			排出量の把握と報告義務の確認	○
			SDS 管理	○
5	PCB 特別措置法	旧型変圧器に使用	届出と変圧器の適切な保管	○
			PCBの適切な破壊処置	○
6	家電リサイクル法	エアコン、テレビ、冷蔵庫 等	廃棄物の適切な処置及び資源の有効	○
7	自動車リサイクル法	社用車	自治体に登録された業者へ引き渡し	○
8	消防法	施設全般	設備の設置と点検	○
9	騒音規制法	施設全般	指定区域確認	○
10	振動規制法	施設全般	指定区域確認	○
11	省エネ法	施設全般	エネルギー使用 1,500kl 未満(原油換算)	○

現状関連法規制の一覧表及びそれらの遵守状況を確認した結果、環境関連法規制の違反及び苦情はありませんでした。

なお、関係当局より違反・訴訟等の指摘は、過去 3 年間一度もありませんでした。環境関連法規に関しては定期的に遵守状況をチェックしています。

## X 代表者による全体取り組み状況の評価及び見直しの結果

<2018 年度の結果について>

白山工場では売上減少に伴う作業量の減少により、ほぼすべての項目で昨年に対する使用量、排出量が削減された。当然の結果ではあるが、会社として立てている原単位当たりの目標については水資源を除く 3 項目で目標が達成できており、活動に対しては一定の評価ができるのではないかと。制作センターでは数値に影響を与えるような大きな変化があり、数値での評価は非常に難しい。2019 年度以降は 2018 年度の実績を基に目標を見直す必要がある。取り組みについては、前年度同様に取り組みを継続してほしい。

2019 年度は大きな設備投資を予定している。前年は厳しい年となったが、今年はその設備をフルに活用し、新規顧客獲得や既存顧客の拡大、新規サービスへの挑戦に向け全社一体となって取り組んでいき、それに環境経営活動をより推進することで会社の更なる成長を目指す。

2019 年 5 月 31 日

代表取締役 浜中 豊和